

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

【職員アンケート】

事業所名 なないろキッズしばた 公表:令和5年3月20日

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8	2	0	・今のスペースはやや狭いが、できるだけ外での活動を企画し、のびのびと遊べる時間を確保している。 ・パーティションを使って学習やクールダウンの場を確保している。
	2	職員の配置数は適切である	10	0	0	・子どもの人数や状況に応じてシフトを組んでいる。急な変更が必要な場合は、人数を調整している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	10	0	0	・限られたスペースの中で、衛生面や使いやすさ、バリアフリーを考慮した環境を整えている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	10	0	0	・目標に向かって全員で取り組んでいくために、日々の打ち合わせや振り返りの時間を確保し、話しやすい職場環境づくりに努めている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	10	0	0	・保護者アンケートを年に一度行い、意向に沿った業務改善ができるように努めている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	10	0	0	・結果はHPIに掲載している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	10	0	0	・七穂会事業所の評価会議に結果を公表し、業務改善につなげている。
適切な 支援の 提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10	0	0	・管理者主催による研修会や外部主催の講演会等、積極的に参加するようにしている。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	10	0	0	・保護者との情報交換を大切にしながら、計画を作成している。 ・子どもの日々の変化に気付くよう、十分配慮しながら見ていく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	10	0	0	・保護者にアセスメントシートを作成していただき、子どもの適応行動の状況を把握している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	10	0	0	・活動内容は事前に計画案を作成し、関係職員で打ち合わせを行っている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	10	0	0	・子どもの実態に即した活動内容を工夫している。 ・イベント等の企画が、マンネリ化しないよう、職員間で話し合っている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	10	0	0	・平日は、活動内容をパターン化することで、生活リズムを整えている。 ・休日や長期休業は、できるだけ外の活動や制作・調理・運動等を取り入れ、丁寧な支援を行っている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	10	0	0	・個々の実態に応じた個別支援計画書を作成し、個別活動と集団活動における支援の方法を組み合わせている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10	0	0	・支援開始前に、担当職員全員で顔合わせをし、その日の支援内容を確認している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	10	0	0	・支援終了後には、子どもの様子を記録し、成長が見られた点やさらに工夫が必要な支援について話し合っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	10	0	0	・日々の様子等を個別のサービス提供記録として職員が記録し、共有しながら、支援の改善につなげている。
18	定期的なモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	10	0	0	・定期的なモニタリングを行い、計画を見直している。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	10	0	0	・個々に応じた活動や創作・交流の場をバランスよく組み合わせながら支援を行っている。	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	10	0	0	・児童発達支援管理責任者が参画している。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	10	0	0	・各学校の年間計画・月歴・下校時刻等の情報をもとに、事業所の計画をたてている。利用者の担任との面談も行っている。 ・子どもの対応については、必要があれば担当者による会議に出席し、トラブルの発生を防ぐように配慮している。 ・学校迎えの際には、情報共有できる雰囲気づくりを心掛けている。

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	10	0	0	・医療的なケアが必要な利用者はないが、必要があれば専門機関からの助言や連携を大切にしている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	10	0	0	・必要に応じて連絡をとり、情報共有や児童の理解を深めるようにする。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	10	0	0	・特に七穂会事業所へ移行する利用者さんの情報共有は密にできる。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	10	0	0	・専門機関と連携し、助言や研修を受けて、今後もよりよい支援方法ができるよう努める。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	10	0	0	・児童クラブの様子を聞き取り、交流を図っていく。(外ヶ輪小体育館と一緒に使う等)
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	10	0	0	・会議等には参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	10	0	0	・送迎の際にはその日の様子をお伝えしたり、連絡帳とおして情報交換したりしている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	10	0	0	・保護者面談で、子どもへの対応の仕方や療育方法について情報交換するようにしている。保護者会でも話題にしている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	10	0	0	・契約時に資料をもとに丁寧に説明するよう心がけている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9	1	0	・保護者面談で、悩みや相談があった場合は、お話をよく伺い、必要に応じて、助言やできる範囲での支援方法の提案をしている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	10	0	0	・保護者会を開催し、保護者同士の連携を図っている。また、本の紹介や講演会の案内をだして、保護者同士が連携しやすい機会を設定している。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	9	1	0	・日頃から丁寧な対応を心がけ、苦情があった場合は、正確な情報収集を行い、迅速かつ適切な対応を行う。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	10	0	0	・毎月のお便りに、連絡や行事予定・活動の様子等を掲載して発行している。また、個人の便りも発行し、事業所での様子を伝えている。 ・必要に応じて、活動の計画を事前に配布している。
	35	個人情報に十分注意している	10	0	0	・個人情報が出さないよう、同意書を交わすとともに、写真の掲載や文書の扱いには細心の注意を払っている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	10	0	0	・日々の子どもたちへの支援では、分かりやすい説明、見やすい掲示や提示、温かい言葉がけ等を心掛け、保護者との会話を大切にしている。必要に応じて便りや支援計画にルビをふる等の工夫もしている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	10	0	・地域行事には参加していないが、今後は地域に開かれた事業運営を目指していく。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	10	0	0	・マニュアルを作成し、職員に周知している。 ・必要に応じて、対応マニュアルに沿った文書を保護者に配布している。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	10	0	0	・非常時の避難場所と避難方法を子どもに分かりやすく指導し、定期的に訓練を行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	10	0	0	・外部研修に参加し、研修内容を職員に文書等を使って指導伝達している。また、事業所内でも定期で研修会を行った。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	0	10	0	・身体拘束を行わなければならないような利用者さんがいない。該当しない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	10	0	0	・保護者や学校からの報告により、食物アレルギーのある子どもの情報を全職員が周知し、適切に対応している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	10	0	0	・ヒヤリハット事例集をもとに、事故の未然防止に向けた対応について職員で情報を共有している。

※数値は、事業所職員の人数